

# やき蛤の小田原屋

千葉市中央区栄町本店  
☎043-222-2463

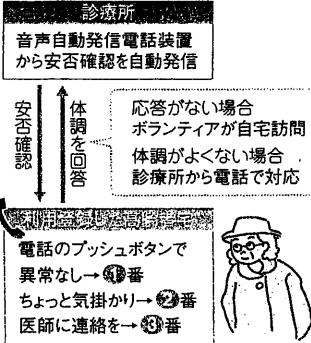
## 千葉中央

地域による高齢者らの孤独死などを防ぐ取り組みとして、松戸市の幸谷、新松戸東の両町会は来年2月から、地元の診療所と連携して行う安否確認システム「あんしん電話」を導入する。町会に加入している世帯の65歳以上の高齢者を対象とし、登録すれば無料で利用できる。国の支援制度を活用し、地域で支え合う体制づくりを目指す。(川田榮)

# 孤独死防ぐ「あんしん電話」

## 地域の高齢者

### 「あんしん電話」の仕組み



このシステムに協力するのは新松戸診療所で、診療所に設置されるパソコンと連動する装置が聞きながら、プッシュボ

タンを押して自分の体調を回答する仕組み。異常なしなら「1」を押し、ちょっと気掛かり

は「2」、すぐ医師らに連絡してほしいは「3」。回答は診療所のパソコンに表示され、「2」と



「3」の場合は診療所側から電話で対応する。高齢者からの応答がないと、その日が翌日に再発信し、それでも応答がなければボランティアが確認に行く。

安否確認の自動発信回数は当面、高齢者が希望

## 松戸の2町会導入へ

## 安否確認 診療所と連携

する曜日と時間に週一回を予定する。

システムは国の「地域支え合い体制づくり事業」の補助金を受けて実施し、通話料は診療所が負担するという。同事業は、最近高齢者の一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えているのを背景に、住民組織などが取り組むモデル的な体制整備を支援する狙いがある。

同市ではこのほか、常盤平団地で自治会などが二〇〇二年から「孤独死ゼロ作戦」に取り組み、緊急通報体制「孤独死一〇番」▽入居者の異変を新聞販売店に連絡してもらう協定の締結などを展開している。

総務省による国勢調査(二〇一〇年十月一日時点)によると、県内人口に占める六十五歳以上の割合(高齢化率)は、県全体で21.2%と五年前の前回より3.7ポイント上昇し、最も高い御宿町では40.6%と四割を超えたことが分かった。

ちばぎん総合研究所が国勢調査結果を基に調査・分析したもので、高齢化率が40%を超えた市町村は県内で戦後初めてという。高齢化率は10%台の市町村が十市(前回比十六減)に減る一方で、20%台が三十三市町村(同十二増)、30%台が十市町(同四増)まで増

## 御宿 戦後初40%超

えた。また、長南町では人口が減少する中、六十五歳以上も減っており、「県内で戦後初の現象」(井上立雄経済調査部長)としている。

また、国勢調査結果に基づき県のまとめによると、六十五歳以上の高齢者がいる一般世帯は八十七万五千六百四十八で、一般世帯の約35%を占めた。このうち六十五歳以上の夫婦だけの世帯は二十万六千三十二(23.5%)、六十五歳以上の独り暮らし世帯は十九万二千二百九十二(21.8%)となっている。(堀場達)

## 進む高齢化 県全体21%